

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー


















南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/3 （6/26との比較）	7/3 （6/26との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	0.56% （+0.05）	79.32円 （+1.26%）	-0.9% 2020年1Q	0.25%	発表されたGDP（国内総生産）は前月比でマイナス幅を拡大したが、市場の予想は上回り、好感された。グローバル全般にリスク選好度が高まり、資源価格が底堅く推移する中、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	住宅着工件数、失業率などが発表予定。資源価格の動向やカナダ中国両政府の外交姿勢に注目が集まるが、金融緩和による経済下支え効果が続く中、債券・為替市場は比較的狭いレンジ内で一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.02% （▲0.22）	20.23円 （+3.47%）	-0.3% 2020年1Q	2.25%	発表された全国失業率は前月比で上昇したが予想は下回ったほか、鉱工業生産が前月比で改善。引き続き新型コロナウイルスの新規感染者数が高水準で推移する中、資源価格の動向の影響を受けつつ、ブラジルレアルは引き続き値動きの激しい展開が続くと予想。	小売売上高などが発表予定。同国の新型コロナウイルスの新規感染者数が高水準で推移する中、資源価格の動向の影響を受けつつ、ブラジルレアルは引き続き値動きの激しい展開が続くと予想。
	Ba2	 金利低下		 景気鈍化	 利下げ局面		
メキシコ 	BBB+	4.80% （▲0.11）	4.80円 （+3.18%）	-1.4% 2020年1Q	5.00%	発表された景気先行指数が前月比でマイナス幅を縮め、米国の雇用統計が好調でリスク選好度が高まる中、外国勢のメキシコ債売りがあったものの、国債利回りは低下。メキシコペソは対円で上昇。	CPI（消費者物価指数）や鉱工業生産などが発表予定。高水準が続く新型コロナウイルスの感染状況を睨みつつ、米国の景気回復期待から、メキシコペソは短期的に強含みを予想。
	Baa1	 金利低下		 景気鈍化	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/3 （6/26との比較）	7/3 （6/26との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAAu	0.90% （+0.04）	74.62円 （+1.37%）	+1.4% 2020年1Q	0.25%	発表された貿易収支は、輸出入ともに前月を上回ったほか、小売売上高は前月を大幅に上回る結果。国内外のリスクセンチメントの改善に支えられ、豪ドルは対円で上昇。国債利回りは上昇。	市場は、中銀が政策金利誘導目標を0.25%に据え置くと予想。新型コロナウイルスの感染第二波対策のため州境を閉鎖し、豪中両政府の外交姿勢に注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		
ニュージーランド 	AA+	0.96% （+0.02）	70.23円 （+1.96%）	-0.2% 2020年1Q	0.25%	発表された住宅建設許可が前月比で大幅に増加する結果。S&P社が同国の新型コロナウイルス感染が抑制されていることから順調な経済回復を見込む中、ニュージーランドドルは前週比で上昇。国債利回りは小幅上昇。	住宅売上高や住宅価格、企業景況感指数などが発表予定。新型コロナウイルスの抑制が比較的順調であり、総選挙まで3カ月を切り経済政策などへの期待が高まる中、ニュージーランドドルは底堅い展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		
ノルウェー 	AAA	0.68% （▲0.00）	11.35円 （+3.02%）	+1.1% 2020年1Q	0.00%	発表された製造業PMI（購買担当者景気指数）は予想を上回り、失業率も前月比で改善。欧州を対象とした渡航制限の一部緩和が発表される中、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは横ばい。	CPIや鉱工業生産、GDPなどが発表予定。中銀が2022年に利上げする想定で、在外資産も財政に投入する方針であり、ノルウェークローネは底堅い展開を予想。金利についても低下幅は限定的となることを予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気鈍化	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		7/3 (6/26との比較)	7/3 (6/26との比較)	前年比 (※3)	先週末		
		今後の見通し (※4)	今後の見通し (※5)	景気の方向性 (※6)	方向性 (※7)		
南アフリカ 	BB	4.99% (▲0.07)	6.31円 (+1.74%)	-0.1% 2020年1Q	3.75%	発表された第1四半期のGDPは前期比で年率▲2.0%と昨年第4四半期の▲1.4%を下回ったが市場予想は超過。貿易収支が黒字転換する中、ランドは対円で上昇。国債利回りは低下。	消費者信頼感、製造業生産指数などが発表予定。景気回復への兆しもみられる一方で、新型コロナウイルスの感染拡大がどのような影響を与えるか注目が集まる中、ランドは一進一退の展開を予想。
	Ba1	 金利横ばい		 景気鈍化	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB	6.55% (▲0.02)	0.74円 (▲1.41%)	+3.0% 2020年1Q	4.25%	発表された消費者信頼感指数は前月を下回り、CPIは前月比で低下。同国中銀が、翌週にも量的緩和を積極化し、財政ファイナンスに協力するとの懸念が高まる中、インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは小幅低下。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。新型コロナウイルス対策として、政府の財政支出を中銀が積極的に負担する案が検討されると懸念が高まる中、債券利回りの抑制や為替市場の下落圧力となると予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気鈍化	 利下げ局面		
インド 	BBB-u	5.07% (▲0.29)	1.44円 (+1.62%)	+3.1% 2020年1Q	4.00%	発表された経常収支が予想に反し黒字に転換。中印国境での緊張が懸念されているものの、経常収支の改善や外貨準備の安定性で海外投資家からの信頼が維持される中、インドルピーは対円で上昇。国債利回りは低下。	鉱工業生産などが発表予定。引き続き深刻な新型コロナウイルスの感染拡大の状況と、中印両政府の外交姿勢に注目が集まる中、インドルピーは底堅い展開が続くと予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気鈍化	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

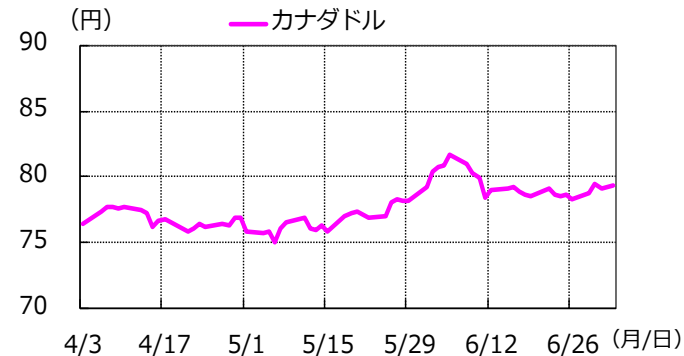
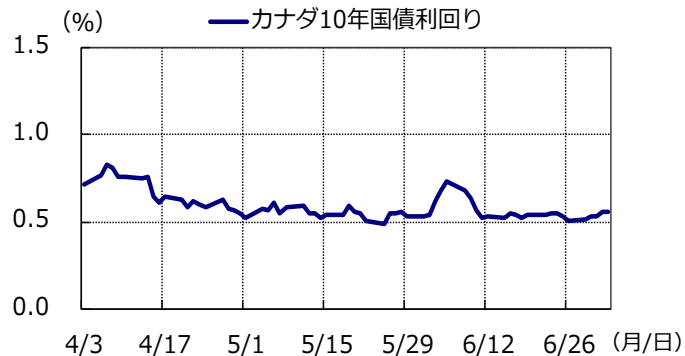
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

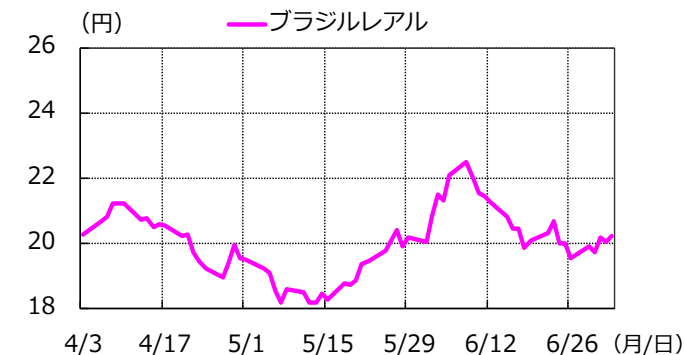
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2020/4/3~2020/7/3

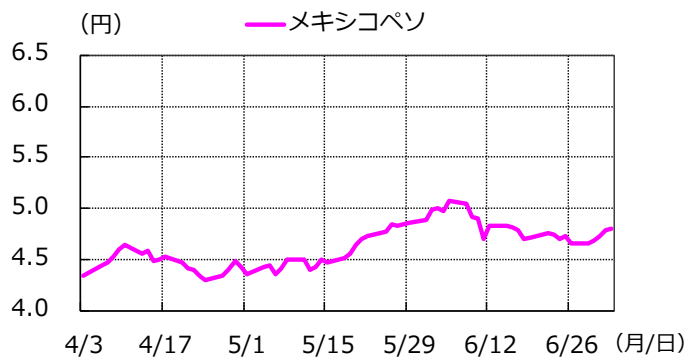
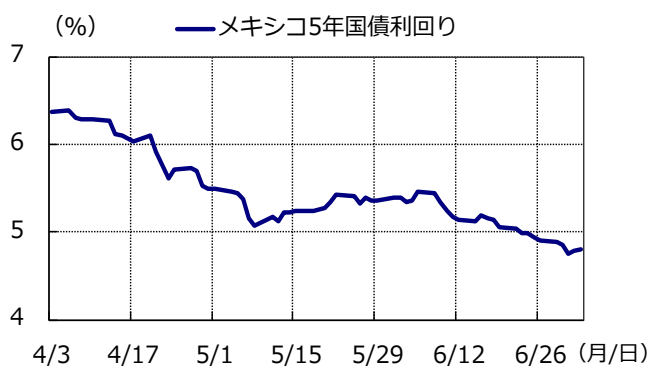
カナダ



ブラジル



メキシコ

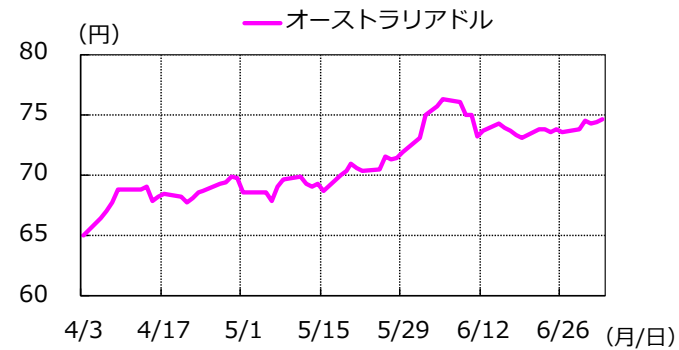
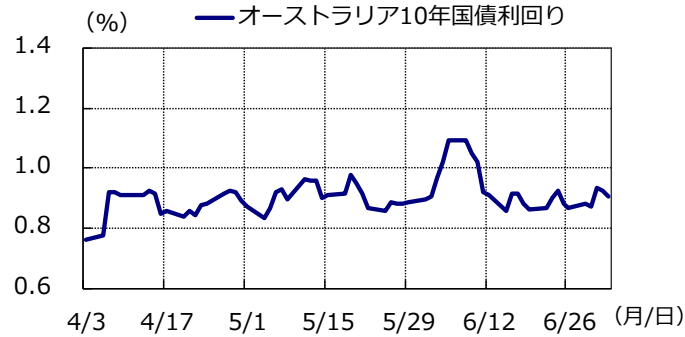


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

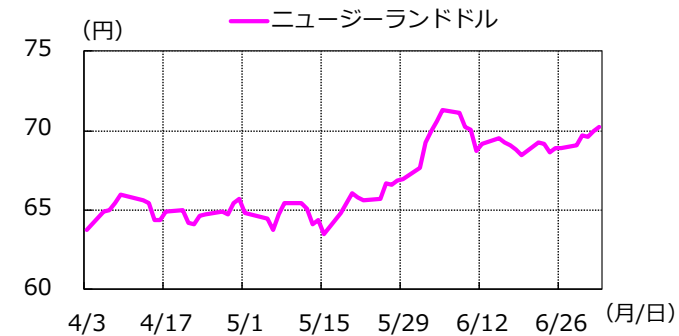
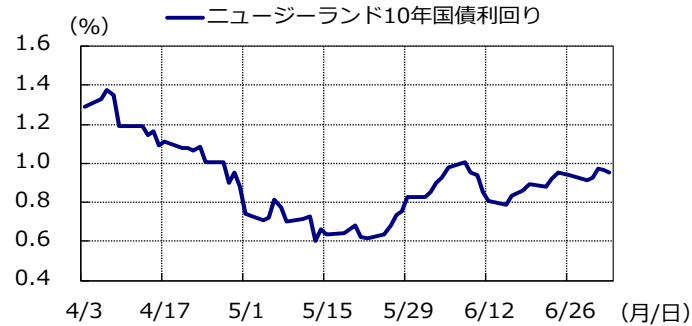
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2020/4/3~2020/7/3

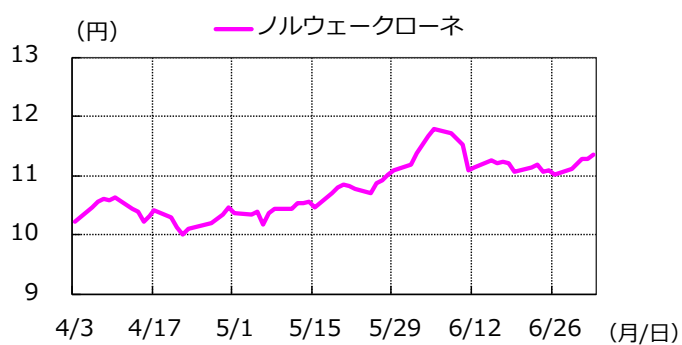
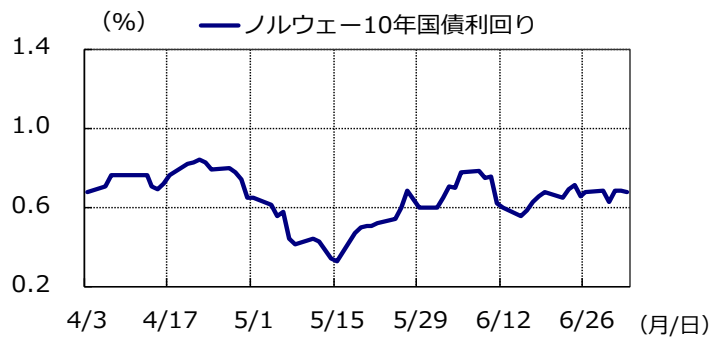
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

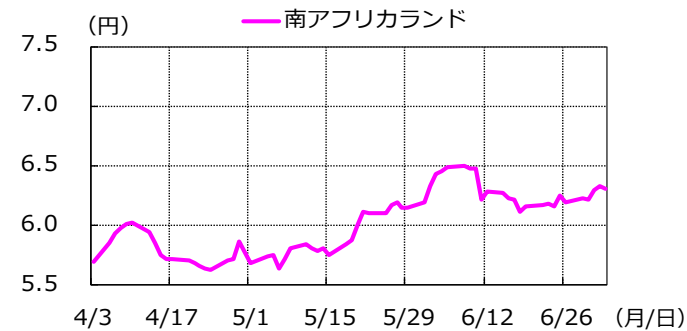
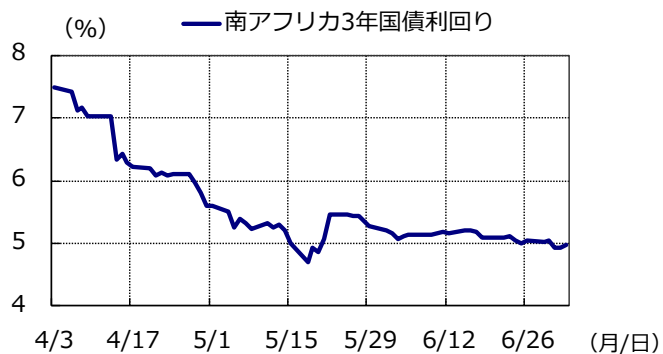


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

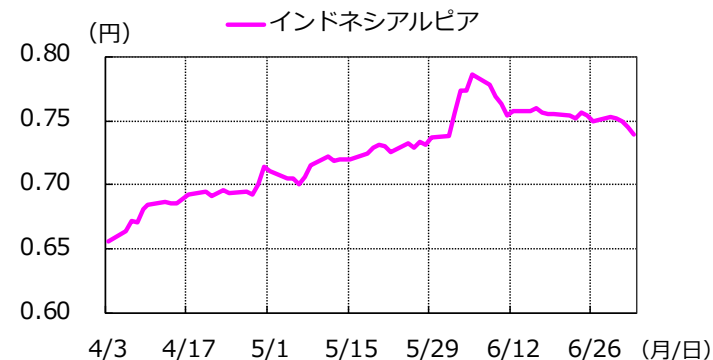
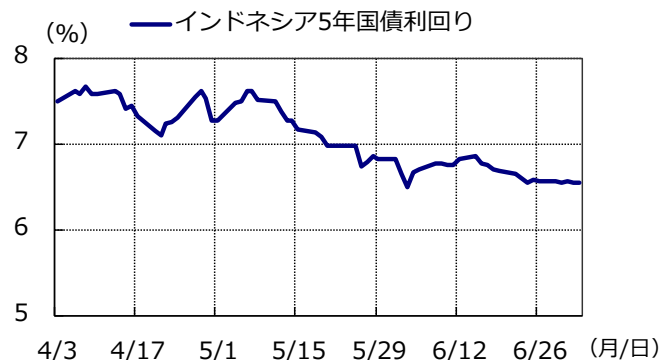
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2020/4/3~2020/7/3

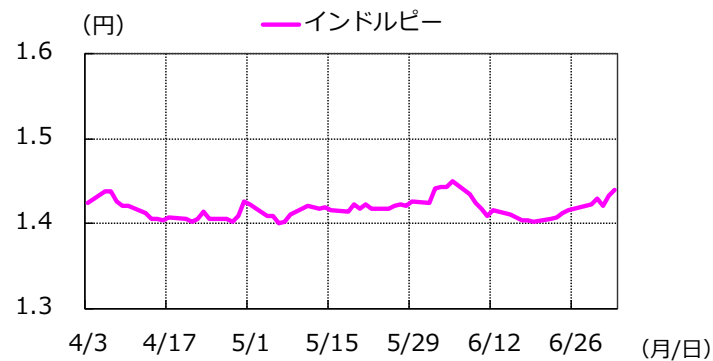
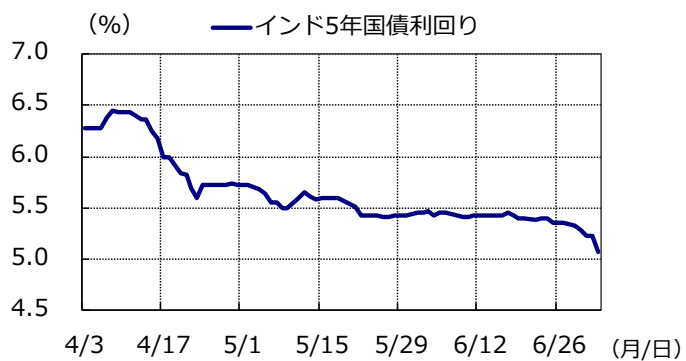
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。